

第5号

平成23年 6月 1日

明治大学校友会
船橋地域支部会報

発行人：堀越 好夫

〒273-0021
千葉県船橋市海神
3-30-5-601



Meiji
Uni
versity

暁の鐘 ふなばし

会報第5号発刊にあたり

支部長 堀越 好夫

平成22年度船橋地域支部は会員各位のご支援ご協力によって企画された事業も滞りなく終わることが出来ました。5月の定時総会に於いて、柳沢敏勝副学長のご臨席を賜り、大学の現況についての裏話（女子学生の活躍、学生数）などについてご講演を頂き総会に華を添えて頂きました。また恒例の納涼パーティーを鮎忠船橋店で行い、各自持ちよりの景品で福引会をやっておおいに盛り上がりました。

当日の募金2万5千510円を船橋市『善意の花園』に寄付いたしました。

ゴルフは7月と10月2回有志が集い楽しい大会を行いました。

12月の忘年会は東魁楼で行って、食い放題・飲み放題カラオケで満喫して、参加者全員でおお明治を合唱して解散、その時の募金2万9千46円を明治大学未来サポーター募金に寄付いたしました。なお、11月26日ふなばし市民公開講座として中央公民館において明治大学マンドリン倶楽部の演奏会が行われ、会員多数が懐かしい後輩の奏でるメロデーを堪能させて頂きました。

（中央公民館マンドリン倶楽部
演奏会会場前にて）



平成23年度の新しい事業事業として、親睦を旨とした旅行等も計画したいと思っておりますので、皆様からのアイデアをお待ちいたします。また、女性会員の勧誘及び女性のサークル活動を立ち上げたいと思しますので積極的に参加下さいます様お願い申し上げます。

平成23年度は、母校明治大学の創立130年になります、大学では、11月1日に記念式典・11月3日に全国校友東京大会を開催することになっております。会員各位多数参加下さいます様お願いします。末筆ながら、船橋地域支部の運営・発展に各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

◎平成23年船橋市市会議

次の方々が当支部会員から当選されました。

4月21日投票 敬称略 順不同

瀬山 孝一	S 36年 政経
齊藤 誠	H 03年 商
津曲 俊明	H 12年 法
磯部 尚哉	H 13年 農

◎次の方々が新入会されました。

平成22年度新入会員

明治大学校友会船橋地域支部

（敬称略 順不同）

- 1 市川 正資 S 58年 政経
- 2 伊藤 尊久 S 34年 商
- 3 伊藤 康久 S 54年 文
- 4 岡田 忠 S 40年 商
- 5 谷口 輝幸 S 37年 政経
- 6 深山 裕司 S 36年 経営
- 7 山口 政廣 S 35年 政経
- 8 山野辺辰衛 S 51年 工
- 9 吉村 桂晃 S 42年 工

◎本年度の主な行事

○主な明治大学 本部行事

23年度 ホームカミングデー

10月16日（日）駿河台校舎

S 36 46 56 H 3・13年の方々

明大130周年記念式典

11月1日駿河台校舎

○船橋地域支部 主な行事

暑気払い 8月23日（日）市内

忘年会 12月4日（日）市内

親睦ゴルフ会 7月19日（火）

「ムーンレイクCC」10月27日（木）

申込先 幹事 溝渕・穴澤まで

「全国校友山形大会に
参加して」
支部長 堀越 好夫

第46回全国校友や永田大会は平成22年9月4日(土)5日(日)の両日明治大学創立者宮城浩蔵先生出身地山形で開催されました。

4日午後3時より支部長・地域支部長・本部役員懇談会を山形グラウンドホテルで行い、向殿校友会長の『明治は一つ』の理念のもとに校友会の発展を力説し、長堀大学理事長は、130年から150年を見据えて大学全体の整備を行ってトップユニバシティーとしての地固めたをしたい。また納谷学長は、「新しい明治」世界に開かれた大学として確たる地位を築いてゆきたいと挨拶があつて、最後に遠藤栄次郎山形県支部長の歓迎のことば、次いで報告事項のあと、日高憲三氏(経営企画担当常勤理事)の『創立130年を基点とした大学の取り組み』について講演があつて会議終了。午後6時からの前夜祭では山形のおいしいお酒・ワインに、地元の綺麗どころの祝舞に花笠踊り、和太鼓で酒席がもろ上がり和やかに閉会いたしました。

5日の本大会は、午後1時から山形県民大ホールに全国から1千人

の校友が集り、恒例の大会旗を横戸了氏(H9年文卒ラグビー部OB)が壇上に入場して大会が始まり、遠藤栄次郎山形県支部長が『宮城浩蔵先生の生誕の地であることを誇りに持ち顕彰の地である山形で大会が開催される喜びは大きい』と歓迎の挨拶のあと、大学関係者の言葉に次いで、当日日本一の芋煮会会場から駆けつけた吉村美栄子山形県知事の県物産のPRをユーモアをまじえての挨拶があり、山形市長・天道市長からも祝辞を頂いて式典が終わりました。記念講演は、加来耕三氏による『今こそ明治大学創立者宮城浩蔵先生に学ぶ』と題して、「その時歴史は動いた」のエピソードを交



えて、歴史作家としての独自の史観をたつぷりとユーモアをまじえて語った。懇親会は、会場を「パレスグラウンダー」に移し午後6時より羽黒山の山伏の法螺貝を合図に、紅

花の笠を手にした踊りで始まり、勇壮な祝い太鼓で祝賀会のムードを盛り上げ、地元の山形牛・日本酒・ワイン・芋煮が用意され山形の味を堪能した、最後は参加者全員が輪になって(オーオー明治の大合昌)で閉会いたしました。

「私が歩いた部」
木村 喜久雄
昭二八年卒



卒業後半世紀振り、第六回ホームカミングデーに出席した折、校舎の変貌・仲間の半世紀という時の重み、その間のそれぞれの生き様が映されている様に見れ、風貌では当時を偲ぶ事も出来なかつた。

自身が浦島太郎になった思いでした。学生時代のことを振り返ってみると、雄弁部の活動のことが中心になるが、実は当時は必修科目以外は成績の悪い科目の単位は



自分で落とせたから成績表は成績の良い科目だけ残すことが出来、社会に出るには都合が良かった。部屋は岸本記念館(講堂)の四階に、下は校友会事務室となつており、対岸は主婦の友社、外人部隊の婦人宿舎、彼女達の着替えが目の保養となる場所であり、若き血を躍らせたものです。幸いな事に部のOBが理事会の半数、教授は十人程度が占めていた関係で経済的にも他部とは異なり余裕があつた。

講堂の中に部室があつた関係で、週何回か檀上での練習、屋上での発生練習等を行つた。それは、やはりしっかりと表現力も身につけ、良い説得力を学びたいの思い



が強く働き、研鑽が求められ、悉く創造的世界へと、自分の表現力の向上へと進んでいた。又、大学建学の精神(権利、自由、独立、自治)の指針に従つて侃侃嚅嚅と論じながら神田スズラン街の「万世軒」「ノンキ」かで安酒を飲みながら成長できた。

「皆に訴える」
東日本大震災に思う
田村 泰一 四十二年政経卒
船橋市国際交流協会会長



この度の「東日本大震災」は、我々に何を考えさせようとしているのか。1000年に1度の災難と云われるが、私の田舎も岩手県でやられてしまった。

中でも人災と云える「東京電力・福島第一原子力発電所事故」は、人類の飽くなき欲望を戒める見返りであると思う。今、世界は未だかつてないスピードで進化している。

この世に世紀が刻まれてから1955年に始まるパソコンの一般社会に普及し始めた以降、20世紀にもわたって築き上げてきた人類社会の生活や習慣が、この16年間であっという間に変革してしまった。

しかも、人類社会の欲望は留まる事を知らない。

進化すればするほど強力なエネルギーを必要とする事は明白である。人類は何処まで進化すれば満足するのだろうか。しかも、進化した分の跳ね返りのリスクを背負ってまで。早い話「南アルプスのど真ん中をぶち抜いて、30分で名古屋

に行く必要があるのだろうか。」これを実現するには、それ相応のエネルギーを必要とする。

電気も現在の発電量では賄えず、さらなる強力な発電所の増設が必要となる。世界中でこの様な競争を激化させるとしたら、一体この地球はどうなってしまうのか。恐ろしい事である。

掛替えの無い地球を人類の飽くなき欲望が破壊してしまうのだ。

「この地球を永遠に残さなければならぬ」との大儀に立った時、我々人類飯山満町この辺りで一服し、スピードを緩めなければならぬのではないか。

人類の欲望が進みすぎて、一つしかない地球を壊さないために。

何か世界に向けて、啓蒙運動を始めたいと思うが如何なものだろうか。(了)

懐かしい思い出と
定年後の町会活動
布留川 邦夫
幹事長 42年政経卒

東海道新幹線の開通と東京オリピックの開催に象徴される高度経済成長期の軌道に乗った頃、明治大学に職員として奉職し、あっという間に45年の歳月が過ぎました。大学では、学生会館が会館し、工学部が駿河台校舎から生田校舎へ移転した時でした。

当時は、各大学で改革を訴えた学生による大学紛争が起り、学生による学費値上げ反対、学校封鎖、ロックアウト等全国の大学が騒然としていた時期でもありました。

教職員の給料を駿河台から生田校舎へ現金輸送したことや、大学入学試験の受験料を現金で受け取っていたことが懐かしく思われます。

そして、昭和50年代初期は、共通一次試験の実施や、成田空港の開港等日本は大きく飛躍し、世界でも上位の経済大国へと発展して行きました。この学園紛争や50年代半ばに挙行された明治大学創立100周年記念式典等は最も心に残ることの一つです。

輪転機からリソグラフへ、そして湿式複写機、電子コピー機から現在のコピー機へと事務機器の発展は目覚しく、遂にパソコンに突入してしまいました。ガリ版で印刷したことや、ソロバン・謄写版など使っていたことが、ついこの間のことのような気がしてなりません。

在職中、すくばからず町会の行事に協力していた私は、定年後も地域のために奉仕する決意をし、現在は、二子町西町会の会長として日々奮闘しています。

情報社会とは言へ、市役所から頻りに書類が到着しています。一戸建てとマンションが混在する当町会では、住民の出入りを把

握することが大変な作業となります。子供達の登下校を見守るスクーパガードに始まり、町内の清掃や公園の清掃管理そして夜間は防犯パトロールと忙しい毎日を送っています。

また、16の町会で結成した「本中山地区自治会町会連合会」に加盟し、諸行事に参加しています。

新春懇親会や忘年会、定期総会、総合防災訓練、合同敬老会、防犯パトロール、健康フェスタバル(運動会)や執行部会議、理事会の開催に伴い、防犯部・防災部・環境部の委員会等数多くの会合を重ねています。行事の遂行にあたり、体育指導員、防犯指導員、青少年相談員、民生委員に加え、地元消防団員も協力し、行事を運営しています。

学校行事や公民館行事、地元商店会、神社も催しものにも積極的に参加し、住民同志仲良く、犯罪のない明るい地域にすることが我々の目標です。



「明治大学校友会船橋地域支部
ホームページ」について
担当 古村 斉成
38年 工卒



昨年6月、
明治大学校
友会 向殿会
長から全国
の支部長・

地域支部長へ「IT担当の選任と
ホームページ作成について」の通
達がありました。船橋地域支部も
「組織活性化の趣旨」に賛同し、
その方向で準備を進めて、平成2
2年 10月9日よりホームペー
ジ「明治大学船橋地域支部」を立
ち上げ、現に至っております。

このホームページは母校明治
大学の現況や校友会組織の縦横の
連携、さらに船橋地域支部の会員
相互の情報交換を通じて親睦を深
める役割を意識して作成されてい
ます。またこれは、担当者が一人
で作成するものではなく、その地
域支部に所属する全員で作成して
いくものと考えていますが、当支
部ではまさに支部長を始め役員な
ど多くのメンバーが作成に参加し
ています。

しかし、ホームページの存在自
体を知らせする機会は、これまで
は支部行事の参加者に限られてい
ましたので、これを機会に是非、

全会員にホームページをご覧頂
きたいと思えます。そして、船橋
地域支部の情報交換の輪をさら
に広げたいと願っています。

ホームページの見方は、「Goo
gle」などのサーチエンジンで
「明治大学校友会船橋」と入力し
検索してください。そして「お気
に入り」へ登録してください。

オンリーワン
穴澤 豊治
43年 政経卒
船橋地域支部 副幹事長

私は、平成22年4月船橋市民
大学いきいき学部陶芸学科へ入学
しました。

応募の動機は、以前から陶磁器に
興味を持ち毎日使う愛着のある器
に、ぐい呑みや皿・茶碗・徳利等
にお酒を注いだり、料理を盛るの
が楽しみになると思い始めました。
船橋市民大学の沿革を申し上げま
すと昭和58年4月老人大学とし
て発足し、平成16年4月市民大
学に名称変更され、以来28年の
歴史があり卒業生7千名を輩出し
ております。

市民大学は、二つの学部で構成さ
れております。
「まちづくり学部」は、授業を通
して学んだ知識・技術をもとに、

まちづくりのために積極的な地域
社会活動へ参加するコミュニテイ
リーダーの育成を目指しておりま
す。

「いきいき学部」は、講義と実践
による学習活動やクラス会での活
動を通して楽しい学生生活を送り
ながら、高齢者の「生きがいづく
り・仲間づくり」を目指しており
ます。

私の所属する陶芸学科は、初心者
を対象に毎週月曜日午前10時か
ら12時まで総合教育センターに
おいて男・女計24名がカリキュ
ラムに基づき、先生とルームアド
バイザーの指導・実践により行っ
ております。

具体的な陶器作りの完成までの手
順として、作品イメージを考える・



道具をそろえる・土を練る・成形
する・半乾燥・仕上げ・完全に乾
燥させる・電気窯で素焼き(約8
00度)・下絵付・施釉・本焼き
(約1,300度)・完成までか



なりの工程と時間がかかります。

(総合教育センター 船橋市東町)

完成したオンリーワン作品の数々
は、どれも愛着を感じるものばか
りであり、だからこそ生活の中
で使ってみたくなる想いになります。
今年の3月卒業となりましたが、
陶芸の始めてキャリア浅いのもつ
と続けたいと思っていたら、明治
大学先輩から「ルームアドバイザ
をやってくれ」と依頼され平成2
3年4月からボランティアで引受
けることになりました。
市民大学のお陰で、明治大学船橋
地域支部新規会員2名を新たに増
やすことが出来ました。